

■平成22年度広瀬川創生プラン重点事業評価シート

【仙台市による自己評価】

事業名	「広瀬川で遊ぼう」の開催		
事業概要	広瀬川の新たな魅力の創出を図るため、5月5日のこどもの日を中心に世代を超えて多くの市民が広瀬川に親しめるイベントを広瀬川宮沢緑地で開催する。		
事業目標	平成22年5月3～5日の3日間に開催し、参加市民数1日平均800名(好天時)以上を目指す。		
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・天候に恵まれ、過去最多の参加者数となり(3日1,800人、4日1,800人、5日2,000人、計5,600人、1日平均約1,860人)、目標を達成した。 ・実行委員会への参加団体が増加し、「広瀬川ボートくらぶ」との連携など新たに展開も生まれた。 		
実施段階	評価項目	評価	取組み状況
事業前	役割分担の明確化	4	・ホームページや地元ラジオ放送等を使った紹介・マスコミへの情報提供など広報を行った結果、新聞やテレビニュース番組で取り上げられるなどの効果があった。
	事業計画の作成	4	・事前にタイムテーブル・役割分担表・交通誘導計画などを作成した結果、大きな混乱もなくスムーズな運営ができた。
	予算の確保	3	・前年度並みの負担金予算は確保できなかったため、チラシ作成・印刷や開催のPRなどの協力を行った。
	課題の抽出	4	・実行委員会委員長の選出を含め、当イベントの継続的開催に向けた実行委員会組織の確立を図ることを課題として検討した。
	対応策の検討	4	・NPO法人広瀬川ボートくらぶと協議して、新たに実行委員会組織に加入いただくとともに、副委員長にも就任していただいた。
事業後	目標の達成	5	・来場者数が延べ5,600人(昨年4,700人)となり、目標を達成した。
	事業の評価	5	・このイベントが地域に定着し、広瀬川に親しむ機会として多くの市民から楽しみにされていることがアンケートからうかがえる。
	情報の共有	4	・今年で5回目ということもあり、市民会議や参加企業・団体との情報共有化は円滑にできている。
	課題の対応	4	・ボートくらぶからの協力を得られ円滑な運営ができた。
	対応策の検討	4	・今後はボートくらぶだけでなく、地域で活動する団体・企業などに広く協力を呼び掛け、実行委員会組織の拡充を図っていく。
合計		41	

よくできた	5	想定以上の効果があった
できた	4	ほとんどの項目が達成された
どちらともいえない	3	できたもの、できなかったものがある状況
あまりできなかった	2	できなかったものが多い
できなかった	1	ほとんどの項目ができなかった

【広瀬川市民会議による自己評価】

事業名	「広瀬川で遊ぼう」の開催		
事業概要	広瀬川の新たな魅力の創出を図るため、5月5日のこどもの日を中心に世代を超えて多くの市民が広瀬川に親しめるイベントを広瀬川宮沢緑地で開催する。		
事業目標	平成22年5月3～5日の3日間に開催し、参加市民数1日平均800名(好天時)以上を目指す。		
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・5年間継続して開催することにより、地元商店会・町内会の理解と協力が促進し、このイベントが着実に地域に定着してきている。 ・3日間の開催期間中の参加者が約5,600人となった。 		
実施段階	評価項目	評価	取組み状況
事業前	役割分担の明確化	4	・実行委員会への参加団体は年々増加しているが、運営の主体となっているのは市民会議のみのため、参加団体の連携を強化し、このイベントが継続的に開催できるよう働き掛けを行う必要がある。
	事業計画の作成	5	・例年好評の乗馬体験が、乗馬クラブの都合で中止となり、さらに広瀬川ボートくらぶの営業などによって事業計画の内容を大幅な見直しを行なった。
	予算の確保	3	・仙台市からの負担金が毎年減額され、出店料など開催資金の確保に努力したが、ちらしの作成費確保など困難な点もあった。
	課題の抽出	5	・イベント開催のノウハウがスタッフ間に蓄積され、ベビールーム設置の要望など様々な課題に対する対応がスムーズに行なえた。
	対応策の検討	4	・前年同様、地元からキャンピングカーを借用し、ベビールーム設置を行なったが、今後さらに対応策を練っていく必要がある。
事業後	目標の達成	5	・イベントが定着し、参加者数が延べ5,600人(3日約1,800人、4日約1,800人、5日約2,000人、1日平均約1,860人)となり、来場目標者数を大きく上回った。
	事業の評価	4	・新規企画としてミニSL、手漕ぎボートが好評であった。 ・鯉のぼりを上流・下流にワイヤーロープを張って掲げたため例年より見栄えが良いと好評だった。
	情報の共有	4	・市民会議事務局において、定期的に開催した実行委員会総会などの情報提供を行ない情報共有化を図った。
	課題の対応	5	・乗馬体験は中止となったが、宮城県仙台土木事務所の紹介によりミニSL乗車体験を実現でき、また手漕ぎボートのため従来の鯉流しを中止したが、新たにワイヤーロープで高く鯉のぼりを掲げられて好評だった。
	対応策の検討	4	・市民会議のメンバーの高齢化が進みこのイベントを継続的に開催するためにはスタッフの若返りが必要である。
合計		43	

よくできた	5	想定以上の効果があった
できた	4	ほとんどの項目が達成された
どちらともいえない	3	できたもの、できなかったものがある状況
あまりできなかった	2	できなかったものが多い
できなかった	1	ほとんどの項目ができなかった

■平成22年度広瀬川創生プラン重点事業評価シート

【仙台市による自己評価】

事業名	「広瀬川1万人プロジェクト」の開催		
事業概要	100万都市・仙台市人口の1%の1万人をキーワードとした広瀬川流域の一斉清掃及び啓発事業(シンポジウムなど)等を実施する。		
事業目標	4月24日(土)と9月25日(土)に清掃活動を行い、前年度を上回る参加者を目指す。(平成21年度参加者:4月85名※雨天のため作並会場のみ実施, 9月1,423名)		
事業実績	4月24日(土)は作並, 澱橋, 宮沢橋, 閑上海岸の4会場で実施し, 850名が参加した。 9月25日(土)は流域15会場で実施し, 参加者数が1,598名が参加した。また, 企業・団体からの協賛金も昨年実績を上回り, さらに清掃活動以外に散策イベントやサケ観察会などの活動も実施した。		
実施段階	評価項目	評価	取組み状況
事業前	役割分担の明確化	5	・事務局長のリーダーシップの下で, 作業を分担して進めることができた。
	事業計画の作成	4	・ごみ回収計画や市職員の緊急連絡網などを作成し, スムーズな運営ができた。
	予算の確保	2	・予算は確保できなかったが, ごみを回収するごみ袋の提供や, 火バサミ貸与などを行った。
	課題の抽出	4	・清掃活動だけでなく, 広瀬川に関心を持ってもらうため活動の幅を広げる必要があるという課題に対する認識から, 実行委員会に新たな活動の提案を行なった。
	対応策の検討	4	・清掃活動だけでなく, 広瀬川に関心を持ってもらうため活動の幅を広げる必要があるという認識から, 実行委員会に新たな活動の提案を行なった。
事業後	目標の達成	5	・春・秋の一斉清掃ともに参加者数が昨年実績を上回った。
	事業の評価	5	・実行委員会に主体的に関与する企業・団体が増えてきた。
	情報の共有	5	・メーリングリストなどを通じて実行委員会に参加する企業・団体と随時連絡を取り合い, スムーズな実施につなげることができた。また, この活動以外の広瀬川に関する情報のやり取りもできた。
	課題の対応	3	・流域散策やサケ観察会など清掃活動以外の事業は実施したが, 実行委員会組織としての取組みとなるにはまだ時間がかかる。
	対応策の検討	4	・清掃活動に関しては, 運営方法が確立しつつあるが, さらに広く市民に広瀬川に関心を持ってもらうために清掃以外の活動に関して, 今後実行委員会組織として取組みを強化していく必要がある。
合計		41	

よくできた	5	想定以上の効果があった
できた	4	ほとんどの項目が達成された
どちらともいえない	3	できたもの, できなかったものがある状況
あまりできなかった	2	できなかったものが多い
できなかった	1	ほとんどの項目ができなかった

【広瀬川市民会議による自己評価】

事業名	「広瀬川1万人プロジェクト」の開催		
事業概要	100万都市・仙台市人口の1%の1万人をキーワードとした広瀬川流域の一斉清掃及び啓発事業(シンポジウムなど)等を実施する。		
事業目標	4月24日(土)と9月25日(土)に清掃活動を行い、前年度を上回る参加者を目指す。(平成21年度参加者:4月85名※雨天のため作並会場のみ実施, 9月1,423名)		
事業実績	4月24日(土)は作並, 澱橋, 宮沢橋, 閑上海岸の4会場で実施し, 850名が参加した。 9月25日(土)は流域15会場で実施し, 参加者数が1,598名が参加した。また, 企業・団体からの協賛金も昨年実績を上回り, さらに清掃活動以外に散策イベントやサケ観察会などの活動も実施した。		
実施段階	評価項目	評価	取組み状況
事業前	役割分担の明確化	5	・ワーキンググループをつくり, 事務局の業務を役割分担し, さらに参加団体の増加と事務量の増大に対応し, 有給のスタッフを採用したため, 円滑な運営を図ることができた。
	事業計画の作成	5	・流域一斉清掃の会場が, 2会場増えたが各会場の事情に精通した個人や団体の実行委員を配置することができ円滑に実施することができた。
	予算の確保	4	・企業・団体73社からの協賛金の賛同が得られ資金面から今後の展望が期待される。
	課題の抽出	5	・企業・団体からの参加方法などの問合せが増えたため, 効果的な周知方法を検討し, ホームページを開設し, 積極的に企画内容や参加方法の周知を図ることとした。
	対応策の検討	4	・課題のひとつである清掃以外の活動については, 今年度は「広瀬川の流域を歩く」「サケの観察会」の協賛や実行委員の企業に三kあを呼び掛けた。
事業後	目標の達成	5	・実行委員からの事業への理解が深まったことと, ホームページの充実と情報提供が促進され参加企業・団体数が昨年を大きく上回った。
	事業の評価	4	・この事業が「環境社会実験」としてスタートして以来, 企業の社会貢献活動の気運の盛り上がりと合わせ, 実行委員会へ参加する企業が増加している。さらに事業内容の充実化を図りたい。
	情報の共有	5	・ホームページの開設, リーフレットの作成・配布, さらに今年度より会報誌「広瀬川ジャーナル」刊行により情報共有化が促進している。
	課題の対応	4	・清掃活動以外の広瀬川に関わるイベントの共催や協賛などにより, 他の団体などと連携した活動を積極的に推進する。
	対応策の検討	4	・広瀬川を環境問題やまちづくりの点などからも捉え, 交流会などの機会を増やしていく必要がある。
合計		45	

よくできた	5	想定以上の効果があった
できた	4	ほとんどの項目が達成された
どちらともいえない	3	できたもの, できなかったものがある状況
あまりできなかった	2	できなかったものが多い
できなかった	1	ほとんどの項目ができなかった

■平成22年度広瀬川創生プラン重点事業評価シート

【仙台市による自己評価】

※仙台市のみ評価項目

事業名	広瀬川ホームページの充実		
事業概要	広瀬川に関する市民活動百科事典として活用されるよう、広瀬川ホームページの充実を図る。また、広瀬川を観光スポットとして活用するため、「広瀬川マップ」の充実を図る。		
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1日あたりのアクセス数(visit=閲覧者)が前年以上となることを目指す。(平成21年度実績 223.4件) ・活用しやすい内容の充実を図るとともに、認知度を上げ、広瀬川に関する市民活動百科事典として活用されることを目指す。 		
事業実績	・1日あたりのアクセス数が309.8件(23年2月20日時点)と目標を上回った。		
実施段階	評価項目	評価	取組み状況
事業前	役割分担の明確化	4	・関連事業に関する情報を積極的に提供・公開するとともに、市民の積極的活用を促すための内容を検討した。
	事業計画の作成	4	・年度当初に計画を立て、そのスケジュールに沿って作業を進めている。
	予算の確保	3	・前年度と同等の予算は確保できなかったため、限りある予算内でアクセス増加と市民利用度増加を目指した。
	課題の抽出	4	・広瀬川ホームページを見て実際の広瀬川に足を運んでもらうための方法を、散策マップ以外にも検討し、既存コンテンツの内容の見直しを行なった。
	対応策の検討	4	・「広瀬川の記憶」のコンテンツと関連させた観光客向けコンテンツを検討した。
事業後	目標の達成	5	・1日あたりのアクセス数(visit=閲覧者)が309.8件(22年2月20日末時点)と目標(昨年度223.4件)を上回った。
	事業の評価	4	・アクセス増加に関しては目標を達成し、広く広瀬川の魅力の発信はできているが、実際に広瀬川に足を運んでもらう取組みをさらに検討する必要がある。
	情報の共有	4	・会報を掲載するなど、市民会議と情報を共有できた。
	課題の対応	4	・観光客向けコンテンツとして、るーぷる仙台の運行ルートと関連した広瀬川の見所紹介コンテンツを準備している。
	対応策の検討	4	・観光客向けのコンテンツについては、次年度の「伊達な旅」観光キャンペーンに向けて今後も引き続き検討を進める。
合計		40	

よくできた	5	想定以上の効果があった
できた	4	ほとんどの項目が達成された
どちらともいえない	3	できたもの、できなかったものがある状況
あまりできなかった	2	できなかったものが多い
できなかった	1	ほとんどの項目ができなかった

【広瀬川市民会議による自己評価】

※広瀬川市民会議のみ評価項目

事業名	企業との協働事業の促進		
事業概要	広瀬川市民会議を中心としたNPOや市民活動団体、広瀬川に関連する企業との協働事業の実施を促進する。		
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・広瀬川市民会議が関わる年間の協働事業実施数が5件以上を目指す。 ・参加する企業・団体の実数が30社以上を目指す。 ・協働事業の推進にあたっては、当面は計画した事業を継続的に実施するため、企業・団体からの協賛金を募り連携した活動を実施する。 		
事業実績	「広瀬川で遊ぼう」、「広瀬川クリーンキャンペーン」、「作並かつぱ祭り」、「広瀬川1万人プロジェクト」、「サケの観察会」、純米吟醸酒「清流広瀬川」の企画の6事業を実施し、協働企業数は78企業・49団体と目標を大幅に上回った。市民会議の事業評価とあいまって企業・団体からの企画提案、協力の申し出などが増えてきている。		
実施段階	評価項目	評価	取組み状況
事業前	役割分担の明確化	4	・各事業ごとに担当者を決め、助成金申請及び協賛金提供の協力を要請するなどして取組みを行った。
	事業計画の作成	4	・事業計画を作成して取組みを行っているものの、計画した予算は確実に確保できるわけではないので、事業遂行する上で常に困難さがつきまとう。
	予算の確保	3	・「広瀬川で遊ぼう」以外の事業は、ゼロベース予算での取組みのため、常に資金確保に苦労している。
	課題の抽出	4	・協働事業をさらに推進する上で、市民会議の組織強化と運営資金の確保が重要課題である。
	対応策の検討	2	・広瀬川への思いの強さ、夢づくりのみで6年間活動を行ってきた市民会議への評価も少しずつ高まっているが、資金確保が最大の課題である。
事業後	目標の達成	4	・協働事業実績については、目標を達成できた。それぞれの個別事業についても、企業・団体と協働して実施できた。
	事業の評価	4	・事業を継続的に実施していることが、企業・団体から高い評価につながっていると思われる。今後さらなる協力関係が期待される。
	情報の共有	4	・市民会議ニュース(会報)の発行に加えて、今年度よりホームページを開設し、さらに充実した情報提供を図っている。
	課題の対応	3	・運営資金の確保については、着実に事業実施して信頼性を高めて対応しており、今後は広瀬川への市民ニーズを探りながら、さらに検討する必要がある。
	対応策の検討	3	・今年度は市民会議発足から6年が経過し、組織強化や運営資金面の確保について半年をかけて検討してきたので、今後一歩でも発展を期して取組みを強化していく。
合計		35	

よくできた	5	想定以上の効果があった
できた	4	ほとんどの項目が達成された
どちらともいえない	3	できたもの、できなかったものがある状況
あまりできなかった	2	できなかったものが多い
できなかった	1	ほとんどの項目ができなかった